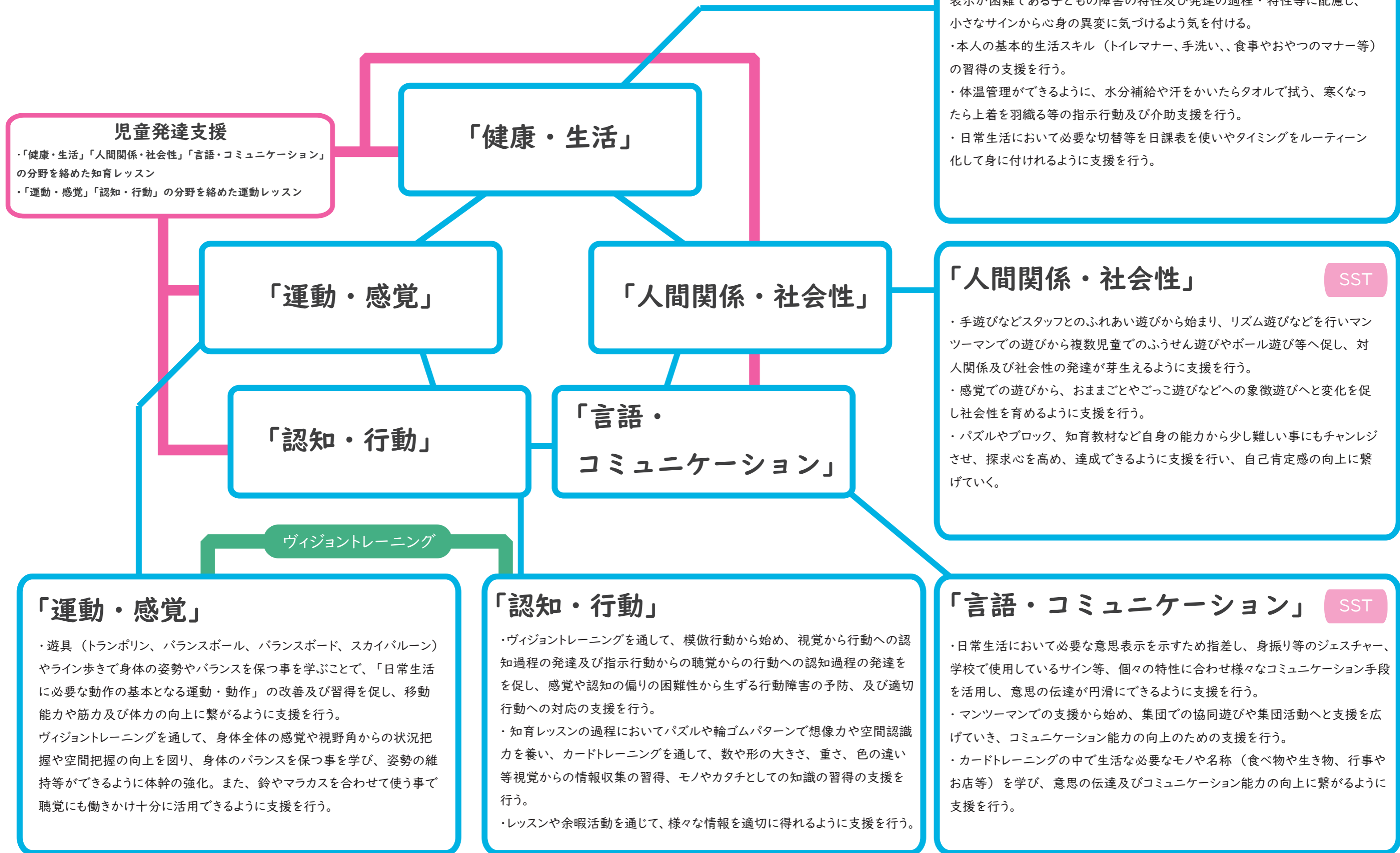


あっぷる 自立支援 南台

5 領域と療育プログラム関係性



児童発達支援

- ・「健康・生活」「人間関係・社会性」「言語・コミュニケーション」の分野を絡めた知育レッスン
- ・「運動・感覚」「認知・行動」の分野を絡めた運動レッスン

「健康・生活」

「健康・生活」 SST

- ・来所時、毎回体温測定や口頭での質問により、健康状態を確認する。意思表示が困難である子どもの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう気を付ける。
- ・本人の基本的な生活スキル（トイレマナー、手洗い、食事やおやつのマナー等）の習得の支援を行う。
- ・体温管理ができるように、水分補給や汗をかいたらタオルで拭う、寒くなったら上着を羽織る等の指示行動及び介助支援を行う。
- ・日常生活において必要な切替等を日課表を使いやタイミングをルーティーン化して身に付けられるように支援を行う。

「運動・感覚」

「人間関係・社会性」

「人間関係・社会性」 SST

- ・手遊びなどスタッフとのふれあい遊びから始まり、リズム遊びなどを行いマンツーマンでの遊びから複数児童でのふうせん遊びやボール遊び等へ促し、対人関係及び社会性の発達が芽生えるように支援を行う。
- ・感覚での遊びから、おままごとやごっこ遊びなどへの象徴遊びへと変化を促し社会性を育めるように支援を行う。
- ・パズルやブロック、知育教材など自身の能力から少し難しい事にもチャレンジさせ、探求心を高め、達成できるように支援を行い、自己肯定感の向上に繋げていく。

「認知・行動」

「言語・コミュニケーション」

「運動・感覚」

- ・遊具（トランポリン、バランスボール、バランスボード、スカイバルーン）やライン歩きで身体の姿勢やバランスを保つ事を学ぶことで、「日常生活に必要な動作の基本となる運動・動作」の改善及び習得を促し、移動能力や筋力及び体力の向上に繋がるように支援を行う。
- ・ビジョントレーニングを通して、身体全体の感覚や視野角からの状況把握や空間把握の向上を図り、身体のバランスを保つ事を学び、姿勢の維持等ができるように体幹の強化。また、鈴やマラカスを合わせて使う事で聴覚にも働きかけ十分に活用できるように支援を行う。

「認知・行動」

- ・ビジョントレーニングを通して、模倣行動から始め、視覚から行動への認知過程の発達及び指示行動からの聴覚からの行動への認知過程の発達を促し、感覚や認知の偏りの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。
- ・知育レッスンの過程においてパズルや輪ゴムパターンで想像力や空間認識力を養い、カードトレーニングを通して、数や形の大きさ、重さ、色の違い等視覚からの情報収集の習得、モノやカタチとしての知識の習得の支援を行う。
- ・レッスンや余暇活動を通じて、様々な情報を適切に得られるように支援を行う。

「言語・コミュニケーション」 SST

- ・日常生活において必要な意思表示を示すため指差し、身振り等のジェスチャー、学校で使用しているサイン等、個々の特性に合わせて様々なコミュニケーション手段を活用し、意思の伝達が円滑にできるように支援を行う。
- ・マンツーマンでの支援から始め、集団での協同遊びや集団活動へと支援を広げていき、コミュニケーション能力の向上のための支援を行う。
- ・カードトレーニングの中で生活に必要なモノや名称（食べ物や生き物、行事やお店等）を学び、意思の伝達及びコミュニケーション能力の向上に繋がるように支援を行う。